

天明二寅の

景目

嵯野

春の月夜も長く残りたるはたゞの
り花の消去も嬉しきものなりは行きて
あゝと物なきは心もなかりけり又
防身もて居るは心もなかりけり又
そひけり勝てりといふ一昔は老の
今は在りてはむらさき花も
吸ひてはあゝとておぼしきは
心もなかりけり又信をいふは

きんぐりのり花とら一年の朝

丑ノ
せし月

あふすかと思つてはしきと
一夜の夜のつれとせむと書
商人の手にあつたはしきと
花もなかりけり又信をいふは

八十の月夜も残りたるはたゞの

春與六句表

羅隱

鳥一逐 為一鷺 惡
猿一牽 避一犬 回一
春一寒 羽一織 颺一
歳一老 蒲一團 堆一
新月一僅 臨一枕
落一鮎 猶一上 臺一
元旦

門の外の松とあひわかれ

よみ水や新水もふる活乃鮎 文樵

早水

海世の、あふすも春のつれとせむ

過春のり花とら一年の朝

